

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価		
				取り組んだ内容と課題、中間期までにできたこと、できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価	評価
①生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上	教務課	・学習指導要領の改訂に対し、課内で、調査研究を開始し、生徒の進路実現を図るための教育課程の編成をめざす。	・教務課員が各教科について調査研究したことを課会議で報告し、共通理解を図ることができる。	・学習指導要領の改訂に対し、教務課会議において課員からの報告を進め始めた。今後は、引き続き課内員が自教科について調査研究したことを課会議で報告し共通理解を図っていききたい。	B	・学習指導要領の改訂に対して、教務課会議において課員の情報共有を図った。詳細についてはまだ提示されていないので、今後引き続き調査研究を進め、共通理解を図っていく。	B	
	進路課	・国公立大学個別試験の問題研究を継続して行う。岡山大、大阪大に加えて九州大を研究する。 ・研修会/研究会などに参加することで新課程入試に関する資料(入試結果と今後の動向)を収集し、伝達講習する。 ・新学力テストに向けて、アクティブラーニングの実践、小論文指導力の向上を働きかける。	・岡山大学入試問題解答解説集が夏休み前に発行できる。大阪大学のファイルができる。 ・検討会時、教員研修の時間をとり伝達講習する。 ・教員向け小論文研修会を実施する。	・岡山大学入試問題解答解説集は予定どおり発行できた。 ・7月の検討会では業者説明会の伝達講習を行った。 ・9/7(木)放課後に、学研の波多野氏を講師に迎え教員対象の小論文講演会を行った。	A	・18年度入試受験生の出願動向研究会に参加、また低学年指導研究会に参加し、12月検討会で伝達講習を行った。 ・3年次生生徒対象に、小論文模試を2回、サタデースクールの午後を使い希望者に対して小論文講座を行った。センター試験を要しない推薦入試では、例年以上の合格者がでた。	A	
	総務企画課	・英語科と協力し、生徒が英語を好きになるしかけとしてALTの活用を充実をはかる。	1年次生を中心に、ALTとグループ会話をする機会を授業外に設けることができた。	後期に向けて、実施を計画している。	C	・1年次生を中心とした授業外でのALTの活用はできなかったが、ALTとの授業のない2・3年次生の普通科の授業でALTとの授業を複数回実践できた。次年度に向け、放課後等を計画的に利用した更なるALTの活用を図りたい。	B	
	文化課	・主体的な学習活動を支えることができるように、幅広い分野で生徒や教職員のニーズを満たす資料や書籍を充実させる。 ・図書館の利用状況を把握して年次団で情報共有を図る。	・図書館に置きたい資料や書籍を各教科でリクエストしていただき、可能なものは購入する。 ・図書館に学年別のカウンターを設置し、来館者状況を把握する。	・各教科からリクエストのあった資料や書籍は購入して活用していただいている。 ・図書館利用状況を各学年で説明し、図書館利用を促進するため協力を仰いだ。	B	・主体的な学習活動に対応できるように、生徒や教職員が必要とする資料や書籍を充実した。特に利用の多い新書を増やした。 ・図書館利用状況を年次団で2回説明して情報を共有した。 ・来館者数は昨年の8割程度、貸出冊数は昨年の9割程度であった。	B	
	国語科	・「話す」「聞く」などの生徒の表現活動を授業の中に取り入れて、伝え合う力を高める。	・生徒の表現活動を取り入れた授業を年間10回程度実施する。	・表現活動を取り入れた授業を各自5回程度実施した。伝え合う力が高まるような表現活動を後期も引き続き実施したい。	B	・表現活動を取り入れた授業を各自10回程度実施した。教科内で情報共有するなどして、伝え合う力が高まるような表現活動を来年度以降も引き続き実施していきたい。	A	
	地歴公民科	・各種資料、統計、地図などにしっかり向き合う場面を設定し、思考力の育成を図る。また、読み取ったことを表現させる手段を工夫する。 ・他校の公開授業等を見学し、自らの授業にフィードバックさせることを心がける。	・各種資料、統計、地図などから読み取ったことを発表する機会を3回以上設定する。 ・平均1回以上校外の公開授業、研究授業等を参観する。	・諸資料の読解にも取り組み、発表する機会を各科目平均で5回以上は設定できた。 ・平均1回以上、校外の公開授業・研究授業の参観ができ、授業改善に役立っている。	B	・新しい教育課程を見据えて諸資料の読解、発表の機会を意識した授業改善を行った。 ・全教員が校外の公開授業・研究授業の参観ができ、授業改善に役立てることができたので、来年度以降も継続していきたい。	B	
	数学科	・岡山大、大阪大、難関大の入試問題の研究を全員で行い、作問能力や分析能力の向上を図る。 ・教科会議の時間を有効活用し、校内実力考査の作問の質の向上に全員で努める。	・2回以上の入試問題分析を行う。また、3年次生の進路志望に応じた過去問研究を行う。 ・複数回会議を行い良問の作成に努める。	・岡山大学・大阪大学の入試問題検討を行った。 ・3年次実力考査の問題検討を行った。1年次、2年次については問題回覧による検討を行った。残りの回も同様に検討を行う。	A	・入試問題の検討、実力考査の問題検討は計画通り行えた。 ・3年次生の志望大学の過去問研究については、各教員で行った。	A	
	理科	・指導力向上のために、各種研修講座、公開授業に参加する。さらにその成果を教科内で共有することに努める。 ・お互いの授業を見学し、助言、指導を通して指導力の向上を図る。	・自分以外の理科教員の授業を年に1回は少なくとも見学し、その授業について相互に検討する。 ・年1回以上各自が研修講座等に参加し教科会議で成果を伝える。	・同じ科目においては普段からお互いの授業を意識することができている。 ・研修講座、研究授業に積極的に参加している。また、博物館等での自主的な研修も行っている。	A	・1年を通してお互いの授業を意識し、教科会の時にフィードバックすることができた。 ・研修講座、研究授業に積極的に参加し、教科会の時に共有することができた。	A	
	保健体育科	・活動目標や目標達成のための計画を生徒自身に立てさせることにより、課題探究能力や思考力の育成を図る。	・目標達成に向けて活動計画がきちんとできている。 ・体力テストの結果を踏まえて、トレーニングメニューを設定させる。	・体育ノートを活用し、目標達成に向け活動計画ができていた。後期も継続していきたい。 ・トレーニングメニューを各自設定できている。後期はメニューの種類を増やしていきたい。	B	・年間を通して体育ノートを活用し、目標達成に向け活動計画ができた。2年次生では体育理論において課題探究能力、思考力の育成につながる取組ができた。	A	
	芸術科	・生徒の芸術的価値意識を拡げる授業の工夫を行うとともに生徒が自主性を発揮でき、表現力が身につくよう工夫を行う。	・年一回以上校外の授業参観、または専門外の分野に関する研修会に行くなど、どの教材、授業研究を行い、授業内等で発表の場を設ける。	・研修に参加し、授業改善に向けて取り組むことができていたが、引き続き研修等に参加し、スキルアップを目指す必要がある。	B	・中間期に引き続き、研修等に参加し授業研究を行った。また、iPad等ICT機器を利用した授業への取り組みを行うことができた。より多くの科内での情報交換をしていきたい。	B	
	英語科	・教員のスキルアップを目指し、校外で開催される研修会や公開授業に参加し、教科内で情報の共有を図る。	・年1回各研修会や公開授業に参加し、教科会議で情報を共有し合う。	・伝達講習研修会2名、パワーアップ研修1名、予備校研修1名参加。 ・10月、11月に予定されている公開授業に英語科より数名参加したい。	B	10月、11月に予定された公開授業には参加できなかった。次年度は、大学共通テストを視野に入れて、他校の研究授業や教科研修会に参加したい。	B	
	家庭科	・生徒が興味関心を持ち、理解力が深まるように授業内容を工夫する。	・授業内容をまとめ、教科で共有できる。	・各教科で授業で使用したワークシートや補助資料プリントを共有できるようにまとめている。	B	・授業内容をサーバー上にまとめ、教科で共有できるようにできた。ノートやファイルでもまとめ、次年度の教科担当に資料が渡せるようにまとめている。	B	
	授業研究部会	・年2回の授業公開の実施。 ・授業研修会(外部講師)のあり方検討と実施。 ・ICT機器の更なる利用促進に努める。	・授業見学やICT活用等により、授業力の向上を実感できる。	・6月の授業公開については見学テーマを設けて実施することができた。 ・11月の授業公開、授業研修会に向けて、必要な準備を行っていききたい。	B	6月・11月の授業公開については見学テーマを設けて、ほぼ計画通りに実施することができた。また、ICT機器をさらに利用しやすくなるよう環境整備を進めた。	B	
1年次団	・生徒の現状と適性の把握に努めるとともに、進路指導力の充実を図る。 ・常に研修を積み、授業力の向上を図る。	・進路指導に関する知識・技術とビジョンを生徒の指導に活用できた。 ・年間を通して月2回程度の授業見学を行い授業力のスキルアップができた。	・進路研修会・小論文指導講演会等へ参加して指導力の充実を図ることができている。 ・月2回の授業見学はできていないので今後できる限り授業見学をしていきたい。	B	・進路研修会・小論文指導講演会等へ参加して指導力の充実を図ることができている。 ・月2回の授業見学はできていないので今後できる限り授業見学をしていきたい。	B		
2年次団	・生徒の現状と適性の把握につとめるとともに、研修の機会や教員同士の意見交換を通して進路指導力の充実を図る。	・調査や模試の結果についての分析機会が確保できる。 ・個々に応じた具体的な進路希望をもたせることができる。	・年次として集まってくる検討機会が確保できていない。今後は早めに計画して実行したい。 ・面談を通して働きかけをしている。教員間での更なる意見交換を進めたい。	B	・会議は試験毎というわけにはいかなかったが要所で話し合いができた。普通科では英語の強化という点で共通理解でき、指導につなげることができた。 ・進路希望検討会をもち、生徒の希望を検討した。生徒の希望もかなり具体化してきたので、今後の検討を指導に生かしたい。	B	B	

本年度の学校経営目標	担 当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価		
				取り組んだ内容と課題、中間期までにできたこと、できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価	評価
②主体的な学習習慣を中心とした生徒の自己管理能力の育成	教務課	・チャイムと同時に落ち着いた状態で授業が開始できるように、教員・生徒の意識を高めるとともに、先言後礼による挨拶の取り組みを図る。	・落ち着いた状態、気持ちの良い挨拶から授業を開始することで、集中して学習に取り組むことができる。	・落ち着いた状態で授業が開始できるように呼びかけ、チャイム開始前着席の習慣が確立してきている。今後は、着席後何に取り組むか内容面での検討を各年次と協力して取り組みたい。先言後礼も定着してきている。	B	・落ち着いた状態で授業が開始できるように呼びかけ、チャイム開始前着席の習慣が確立した。また、普通科における先言後礼の習慣も定着してきた。今後は、着席後何に取り組むか内容面での検討を各年次と協力して取り組む。	A	
	進路課	・年間を通して学習実態調査を行う。生徒が自己目標をたて、日々の学習を振り返りながら学習習慣を確立させる。(手帳の有効活用) ・各教科の学習習慣育成の取り組み内容を把握し、教科バランスのとれた学習習慣にする。 ・『進路のてびき』を改訂して発行する。	・家庭学習の時間が普通科は3時間、家政科は2時間を超える生徒の割合が7割を超える。 ・模試の反省会をその都度行う。 ・夏休み前に発行できる。	・3年次の最終6月は、普通科4.3時間、家政科2.3時間でここ数年では最も多かった。2年次生9月は、普通科2.7、家政科1.7時間、1年次生9月、普通科2.7、家政科1.6時間で、目標に届いていない。 ・進路の手引きは予定どおり発行できた。	B	・1年次生11月は、普通科2.7、家政科1.9時間、2年次生11月は、普通科2.8、家政科1.5時間。学習時間が増えなかった。 ・12月末には、1、2年次生各々で進路ミニ検討会を行った。	B	
	寄宿舎	・寮生活の中に学習時間を定着させ(20:00~23:00)、意欲的に学習に取り組ませる。	・定期考査で赤点を極力減らし、単位を落とすこと無く取得する。 ・3年次生では寮生活を利用し、よりよい進路選択を行う。	・学習時間についてはほぼ定着できている。ただ学習内容については課題に取り組むことが主であり、自主的な取り組みにはまだ至っていない。 ・3年生は進路実現に向けて取り組んでいる。	B	・学習時間についてはほぼ定着できている。しかし、学習時間中の部屋移動も時々見られ生徒の意識の低下も一部見られた。 ・3年生は進路実現に向けて取り組みここまではある程度の成果を出している。	B	
	国語科	・授業ごとの予習・復習となる学習や週末課題を課す。	・課題の期限内提出率7割以上。課題の提出率8割以上。	・課題の期限内提出率6割、課題の提出率は8割以上を達成できている。期限内提出率を上げるとともに課題提出前後の指導を充実させたい	B	・課題の期限内提出率7割、課題の提出率は9割以上である。中間期には達成できていなかったため、年度を通して達成できるように、提出前後の指導を充実させたり、課題内容の再考や精選を行ったりしたい。	B	
	地歴公民科	・復習の習慣を定着させるために、課題の時期と量を工夫する。 ・小テストを含めた復習定着テストを定期的実施する。	・単元末、あるいは模試の時期にあわせて課題を出す。 ・単元末に小テストを実施する。	・各科目において模試の時期に合わせて苦手克服に向けた適切な課題を課すことができている。 ・小テスト、単元ごとのテストを各科目で、定期考査と定期考査の間や、授業のはじめなどで実施できている。	B	・他教科との課題量のバランスを見ながら、模試や実力考査前など、必要な時期に課題を課すことが出来た。 ・小テスト、単元テストを適切なタイミングで行い、知識の定着を目指すことが出来た。	B	
	数学科	・毎日課題、週間課題の内容を工夫し、生徒の自主的学習を促す。 ・上位層の生徒が自主的に取り組む課題を工夫し、取り組ませる。	・9割以上の生徒が、毎日課題(1,2年次)や予習・復習などの課題(3年次)を提出し、家庭学習時間を毎日1時間以上確保している。進研模試全国偏差値60以上が15人以上いる。	・普通科は数学の家庭学習時間1時間は確保できている。提出状況は8割程度と目標には達していない。 ・7月進研模試では偏差値60以上は各学年15人以上いる。	B	・数学の家庭学習時間1時間は確保できた。提出状況は8割程度で達成できなかった。 ・11月進研模試では1年次は偏差値60以上が7人、2年次は15人、3年次は11人と目標を下回ったため、各学年で教科指導の方法を検討する必要がある。	B	
	理科	・課題(当日課題、週末課題、長期休業中の課題等)の実施と期限厳守での提出を促す。課題の提出状況を定期的に示し、状況が良くない生徒に関しては随時面談を行い指導する。	・提出率90%以上…A ・提出率80%以上…B ・提出率75%以下…C	・理科いずれの科目でもほぼAもしくは一部Bの状況は達成している。	A	・理科いずれの科目でもほぼ達成している。	A	
	英語科	・家庭での学習内容を具体的に提示し、学習習慣の定着を図るとともに、個々の能力に応じた対応をする。	・普通科の家庭学習時間が1時間を上回る。 ・個々の能力に合わせた週末課題を設定し取り組ませた。	・家庭学習時間1、2年次は0.9時間、3年次は1時間。1、2年次は目標に達しておらず、今後の継続的な指導が必要。 ・全年次でレベル別に生徒が選択できるように課題を設定している。	B	・11月の家庭学習時間では、1年次0.9時間、2年次0.7時間と目標には達しなかった。今後も継続的に学習の取り組み方について具体的に示す必要がある。全年次でレベル別に課題を設定し、生徒に取り組ませることができた。	B	
	家庭科	・学習習慣の確立や自己管理能力が高まるようにスコラ手帳を活用する。	・「スコラ手帳を用いて自己管理ができた」生徒アンケート80%以上。	・スコラ手帳に家庭科行事の内容や宿題など書かせ、手帳を活用するようにしている。	B	・スコラ手帳の利用は出来たが、自己管理が出来るまでには至らなかった。	B	
	1年次団	・高校生らしい言動(服装頭髪、挨拶、言葉遣い、美化、授業態度、生活態度等)ができる生徒を育成する。 ・手帳を活用した自己管理ができるようにする。	・80%以上の生徒が「先言後礼」などあらゆる場面で気持ちの良い挨拶ができた。 ・スコラ手帳を使いこなせる生徒が80%以上であった。	・服装頭髪や生活態度は良好であり特に大きな問題はない。 ・欠席は1日平均約0.66人で良好である。 ・授業での「先言後礼」も大きな声でできている。挨拶と適切な言葉遣いの指導は今後も継続していく。	A	・服装頭髪や生活態度は良好であり特に大きな問題はない。 ・80%以上の生徒が「先言後礼」などあらゆる場面で気持ちの良い挨拶ができている。 ・欠席は1日平均約1.02人である。 ・スコラ手帳の活用は各生徒に任せているが概ね自己管理はできている。	A	
2年次	・高校生らしい言動(服装頭髪・挨拶・言葉遣い・美化・授業態度・生活態度等)ができる生徒を育成する。 ・手帳を活用した自己管理ができるようにする。	・授業での先言後礼が徹底できる。 ・欠席日数が1日平均2人以下。 ・スコラ手帳が満足できる程度に活用できる生徒が55%以上。	・先言後礼は定着している。 ・現在1日平均2.2人程度。 ・年度当初32%→約43%。後期も引き続き指導が必要である。	B	・先言後礼は定着している。 ・現在1日平均2.0人強。(1月19日) ・中間期からほとんど変化なしで目標値55%には達せず。	B		
3年次	・面談などを通して生徒の進路実現への支援が計画的・継続的に行えるように工夫し、環境整備に努める。 ・生徒に進路実現のための短・中・長期的な計画を考えさせ、自己管理能力の育成を図る。 ・授業規律を確立するために授業2分前準備、先言後礼の指導を徹底する。	・面接週間、志望校調査以外に各生徒との面談を複数回行う。 ・生徒と常に進路実現に向けたオープンな意見交換が行える人間関係が築ける。 ・先言後礼が定着する。	・家庭学習の定着、学校中心の生活への意識付けはしっかり出来ている。 ・授業2分前準備、先言後礼の指導の徹底なども定着し、受験生の集団としての意識は高まりつつある。	A	・家庭学習の定着、学校中心の生活への意識付けが、多くの生徒に出来ていたため、進路決定後の生徒もしっかり学校生活に取り組んだ。 ・受験生の集団としての意識は高まり、受験生として良い準備を行い、進路実現に向けてラストスパートが出来ている。	A	B	

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価		
				取り組んだ内容と課題、中間期までにできたこと、できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価	評価
③生徒が自主性を発揮できる場面の工夫と内容の充実	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部が年間の活動方針及び活動内容をあらかじめ提示することにより、各生徒会行事について学校全体で取り組む意識を高めるとともに、関係の委員会や部活動に働きかけ、学校行事の準備、運営に主体的に取り組む生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒松籙祭実行委員会開催3回以上でA 学校行事や校則等を検討する評議員会の開催3回以上でA 松籙祭後の生徒アンケートでの「良かった」の回答90%以上でA 	<ul style="list-style-type: none"> ここまでの生徒会執行部の活動については、ほぼ計画通り進んでいる。 生徒松籙祭実行委員会3回開催。 評議員会2回開催。 生徒アンケート「良かった。」91.6% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒松籙祭実行委員会3回開催。 評議員会2回開催。 生徒アンケート「良かった。」91.6% 生徒からの要望がなく評議員会は2回開催にとどまった。 	B	
	総務企画課	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールを見直し、生徒が主体的に活動できる場面を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒実行委員会を立ち上げ、生徒が主体となった企画運営ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏のオープンスクールでは、清掃活動や中学校別交流会の運営など生徒が目的意識を持って取り組むことができるよう事前指導を充実させ、生徒も意義を理解して能動的に活動できた。昨年度に比べてOS参加中学生のアンケート回答で「とてもよかった」が10.2%増加、自由記述欄にも「きれいな学校」と書かれていたことは生徒が積極的に活動した結果と考える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 秋のオープンスクールで生徒会執行部が主体的に考え中学生と高校生役になって進めた全体会での学校紹介は、本校の魅力をクイズ形式にした新しい試みで好評であった。生徒達がよりよいオープンスクールになるよう主体的に工夫しChallengingした行事となった。 	A	
	厚生環境課	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員会の活動で清掃点検と古紙回収の隔週での実施を継続して行い、点検結果をアナウンスし学校あげでの美化意識の高揚をはかる。 美化委員会を中心として生徒会などと協力し、学校周辺及び校外の清掃活動を企画、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃状況、古紙回収状況を毎月クラスで報告する。 改善が見られない場所の監督教員に改善を促す。 前期及び後期に1回ずつ、計2回の学校周辺清掃活動ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃点検、古紙回収とも定着しているが、点検結果のアナウンスまでは至っていない。 学校周辺の清掃活動ができなかったが、松籙祭などの学校行事においてトイレ清掃などの活動ができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校周辺の清掃ができなかった。多くの行事をこなす中で、どこで行えばいいものかなかなか苦しいものがある。 委員会の活動は生徒がよく動いてくれ、円滑であった。 	B	
	家政科	<ul style="list-style-type: none"> 家庭科行事と授業内容を効果的にリンクさせるよう工夫し、生徒主体の場面を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 「家政科の行事に積極的に取り組めた」生徒アンケート80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地紅茶まつり」や「ふれあいフェスタ」など校内外の行事を生徒主体で計画している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「積極的に取り組めた」1年80.8% 2年83.3% 3年88.5% 全体84.4% 家政科展の内容も授業内容とリンクさせるよう工夫が出来た。 	A	
	寄宿舎	<ul style="list-style-type: none"> 寮生の自主的な活動により寮生活の改善を図る。そのために毎週木曜日に反省会を行なう。 寮長、副寮長等と密に情報交換を行い問題点を的確に把握する。 正確な動静表を作成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週、反省会を実施し、生徒間で活発に意見交換を行わせる。 毎月、男女寮に寮務主任、主任とともに少なくとも1回ずつ宿泊し、意見交換を行う。 自分の動静を正確に把握させるように毎月早めに動静表の作成に取りかからせる。 洗濯機や風呂など公共用具や設備の使い方について生徒自らが話し合い、利用スケジュール等を作成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 反省会は継続して実施できている。 各月1回以上は宿泊し寮生の生の言葉を聞き改善できている。 動静表の作成は順調に行っているが、自分の動静を認識していないものが少しいるので自分の作成した動静を今後しっかり把握するようにさせたい。 洗濯機等の使用は最初少し混乱したが事務の方々が素早く動いてくださり現在は比較的落ち着いた使用ができている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 反省会は継続して実施した。 各月1回以上は宿泊し寮生の生の言葉を聞き改善した。 動静表の作成・配布・確認は確実にできた。 おおよそスケジュールを守って行動した。 	A	
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 演示、実習を適切に実施し、それらについて、積極的に考察させる。 演習に取り組ませ、生徒同士で理解に努めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習、演示を年間を通じ実施。 授業において、生徒同士で演習について教えあう姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目間で多い少ないがあるが適切に実習が行われており、生徒の理解・興味を高めている。その時には生徒間での協力が多く見られる。 特に3年では演習も積極的に行われている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 適切に実習を行い、生徒の理解・興味を高めた。 生徒間での教え合いなどの場も多く見られた。 3年では積極的に演習に取り組んだ。 	A	
	1年次団	<ul style="list-style-type: none"> 集会の司会や行事などで生徒が自主的に取り組む機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主的な行事や集会を年5回以上設定できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による行事の運営や集会の司会は現在まで2回行った。今後も自主的な行事が各クラスで計画されている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による行事の運営や集会の司会は現在まで2回行った。今後も球技大会で自主的な運営が計画されている。 	B	A

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価		
				取り組んだ内容と課題，中間期までにできたこと，できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題，できたこと，できなかったこと等	評価	評価
④教職員間の情報共有を図り，課題意識を持って組織的に取り組むことができる協働体制づくり	教務課	・課会議における各係からの事前提案の活性化を図り，内容を充実させる。	・教務課員それぞれが課題意識を持ち，業務確認に終わらない意見提示型の会議ができ，それが実際の場面に活かせる。	・教務課員からの意見・提案をもとに，業務を行うことにより，共通理解を図りながら自己の役割を遂行できている。 ・職員室内の鍵BOXの使用について使用簿を作成し改善に取り組むと共に，職員室内の整備を行い，先生方が業務をしやすい環境整備や危機管理の取り組みを行った。	A	・教務課員からの意見・提案をもとに，業務を行うことにより，共通理解を図りながら課員それぞれが自己の役割を遂行できた。 ・職員室内の鍵BOXの使用について使用簿を作成し改善に取り組むと共に，職員室内の整備を行い，先生方が業務をしやすい環境整備や危機管理の取り組みを行った。	A	
	生徒課	・毎週，課会を開き，生徒課メンバー間の共通理解を図る。	・95%以上開催でA	・毎週月曜日1限目に課会を開き，共通理解を図ってきたが，不十分などところは適宜，メンバーを集め検討している。開催率は92.3%である。	B	・定期的な課会については，後半開催率が上がらず80%の開催率となったが，必要に応じて適宜集まり，検討してきた。	B	
	進路課	・各年次，進路通信を発行し，進路情報の共有化を図り，進路指導の方向性を共通理解する。 ・『進路のてびき』を有効に活用するために，教員・生徒に働きかける。	・進路通信を各年次10回発行できる。 ・面接週間で『進路の手引き』を使いながら面談し，志望校等の具体的な話ができる。	・3年次は普通科7号，家政科4号まで発行。 ・担任によって使用頻度に差がある。年次の係より利用を呼びかけたい。	B	・3年次は普通科12号(センター試験号含む)，家政科4号，1年次は普通科26号，家政科13号を発行。 ・3年次生の出願時には，マニュアルとして活用された。生徒の自主的な進路学習で活用させたい。	B	
	総務企画課	・より充実した広報活動に向けて，課内で協力してホームページの更新にあたる。 ・課内でHPの講習会をもつ。 ・課内で部等の担当を決めて情報収集する。 ・教職員を対象にブログ更新等の講習会をもつ。	・課内でHPの講習会をもつことができた。 ・部活動等の情報収集ができた。 ・教職員対象のブログ更新等の講習会が開催できた。 ・HPが充実した。	・課内でHPの更新の講習会をもつ予定であったが，業者に更新を委託することになり，魅力的なHPにリニューアルできた。 ・課内で部担当を決めたが情報収集までには至っていない。野球部が部活動のページにfacebookをくっつけてタイムリーに発信できていることから部活動の情報発信の新しいスタイルを模索する ・教職員対象のブログ更新等の講習会は第2回定期考査中(7/6, 7/7)に実施できた。	B	ホームページがリニューアルし，閲覧数が増え広報活動の充実につながった。部活動の情報発信の新しいスタイルについては，模索中であり来年度の課題である。	B	
	厚生環境課	・清掃時間の厳守。監督場所への一分前の到着。 ・厚生課受付の文書の周知。	・教職員全員が清掃の意識を高め，監督ができる。清掃のチャイム時に職員室に教員がいない。 ・朝礼や朝礼連絡で，必要な連絡をした。	・面接週間，およびこの時期の3年次団においては昼食時の面談などにより清掃時間の厳守が難しい状況にある。 ・受付文書の管理，連絡は随時行えた。	B	・清掃の徹底は本校の一番の課題であるように思う。教員と生徒一丸となつての取組が必要と思われる。清掃が教員の仕事かどうか論議される中，勉強一辺倒の学校ではなく，人間教育としての位置づけに清掃を取り入れたい。	B	
	1年次団	・日常的に生徒に関する情報交換を意識的に行う。 ・担任業務を年次全員で分担して行う。	・状況を把握し，共通理解のもとチームとして生徒の指導ができた。 ・担任業務の分担をすることで，より細やかな指導につながった。	・生活面で留意すべきごく少数の生徒についての情報交換が中心となっている。さらに幅広く情報交換できるようにしたい。 ・年次付きの先生方も協力して朝のSHRなど全員で取り組んでいる。	B	・生活面で留意すべき生徒について情報交換ができてきている。また共通理解のもとチームとして指導ができてきている。 ・年次付きの先生方も協力して朝のSHRなど全員で取り組んでいる。	A	
	2年次団	・生徒に関する日常的な情報交換を綿密に行う。(朝の連絡進行を分担するなどし活性化をはかる) ・担任業務の年次全体での分担(特にスコラ手帳チェック)	・活発な情報交換を通じ，共通理解のもとチームとして生徒を指導できる。 ・手帳の点検分担が年間を通して継続できる。	・チームとしての一体感は保っている。会議以外の場面でも生徒理解を深化できる雰囲気を広げていく。 ・協力的に分担できている。担当からの提出指導を徹底したい。	A	・生徒の様子を日常的に話し合える状況があり，生徒理解は確実に深めることができた。担任・教科担当の枠を越えて関わりをもてた。 ・手帳の点検，総合学習の指導，年次行事など様々な場面でしっかり協力できた。	A	
	3年次団	・研修会/研究会などに積極的に参加することで進路情報の収集に努める。 ・年次会，朝礼などの持ち方を工夫し，教職員間の情報共有を図り，共通理解のもとで生徒の進路実現に向けた支援に組織的に取り組む。	・模試毎にミニ検討会を開催する。 ・伝達講習も複数回行う。 ・進路指導の方向性などについて共通理解がもてる。	・教員間の情報共有はできており，各クラスの受験生としての意識は高まりつつある。一方，保護者との連携などで不十分な状況もあったので，今後はより一層，連絡を密にしながら進路実現への取り組み方を考えていきたい。	B	・指導体制が整い，受験準備の指導はしっかりと出来た。そのため国公立推薦，AO試験などの受験シーズン前半は手応えを感じる成果を上げた。 ・進路決定者の指導もまずまず行え，クラスの雰囲気も良いまま，本番を迎えつつある。卒業に向けて，より一層，連絡を密にしながら進路実現への取り組み方を考えていきたい。	A	
	理科	・教科会議を開催し，「報告・連絡・相談」を徹底する。 ・教科会議を利用し，生徒の自主的な学習習慣の確立・指導方法の研究などについての情報交換や検討を行い協働体制を確立する。	・水曜の4限に教科会を定例化する。 ・教科会議において授業見学や研修等についての検討や伝達を行う。	・前期時間割変更のため教科会が予定通りなかなか行えなかった。今後は毎週実施していただける。 ・回覧等確実に実施。	B	・ほぼ毎週，教科会が予定通り行えるようになった。 ・回覧等を確実に実施した。	A	
	家政科	・家政科のPRを積極的に行う。 ・ホームページやブログ等の広報を積極的に行い，高粱高校のブログにおいて年間25回以上タイムリーにアップする。	・年間25回以上タイムリーにアップできた。	・ブログを現在12回アップしている。 ・ホームページの家政科の内容も新しくできた。	B	・ブログ現在(12月末)18回アップできた。 ・新聞社やケーブルテレビなど，家政科展の事前取材や当日取材もしていただけた。	B	
寄宿舎	・朝礼などを利用して寮の運営に関わる事柄を職員全員に伝え共有する。 ・寄宿舎の係に係会や回覧等で検討事項を伝え解決に当たる。	・各自が安心して舎監の業務を行える。 ・1年を通して，係全体で寮の運営に携わる。	・時々問題が起こるが，確実に連絡を受けており適切に対処できている。 ・係の方々が適切に動いてくださっている。	A	・問題発生時にも城南高校と協力し，適切に対処できた。 ・舎監の方，寄宿舎の方が適切に動いてくださった。	A		
事務室	・朝礼及び行事予定表を活用し，情報共有を行う。 ・事務引継書の見直しを行う。	・連絡漏れがない。 ・実際の事務引継ぎを元に，改訂する。	・情報共有できている。 ・イベントごとに事務引継書を意識しながら，情報を蓄積している段階である。	B	・情報共有できている。 ・事務引継書の加筆・修正を必要とする事例が蓄積できたので，年度末人事異動に向けて整理する予定である。	A	A	

